

大泉高校附属中学校の皆さん、こんにちは。横田理彦です。

1月10日の職業講話の感想文を拝見しました。今回の講話は、おそらく皆さんが想像していたものとは違っていたと思います。でも、これまで皆さんが認識していた「夢」や「目標」「職業」の捉え方に、新しい視点が加わったことが、ひしひしと伝わってきました。

感想文を読んで、私が驚愕したことが2つあります。

【驚愕1】みんな、自分事になっている！

皆さん全員が、私の話をただ聞いて終わりにせず、「自分だったらどうだろう？」と自分事に置き換えて、自分の中に取り込んでいきましたね。

実は、私が皆さんくらいの年齢のときは、大人の話聞いても「ふーん、そうなんだ」で終わってしまうことがほとんどでした。でも皆さんは違った。それぞれが「自分はどうする？」「自分ならどう考える？」って、自分の頭で考えていた。これは本当にすごいことだと思います。

【驚愕2】みんな、それぞれ違うキーワードを拾っている！

感想文を読んでいて気づいたのは、一人ひとりが「自分にとって役に立つキーワード」を拾っていったこと。全員が同じことを書いているわけじゃない。それぞれが、今の自分に必要なメッセージを受け取っていました。

多かった順に見てみると、こんな感じでした：

- 1位『決めないという選択、選択肢を増やす』33%
- 2位『好きだけできないことに取り組むと伸びる』14%
- 3位『"働く"とは職業を通じて"こういう自分でありたい"を実現すること』10%
- 4位『子供の頃の好きが軸になる』10%
- 5位『相談する勇気』9%
- 6位『なりたくないもの以外がすべて選択肢になりうる』8%
- 7位『夢だと思っていたものは実は手段。本当の夢や目的は手段の先にあり、ルートは何通りもある』7%

中でも私が驚いたのは、2位の『好きだけできない、これをやると伸びる』。実はこれ、当日のアドリブでした。私がどんな選択をしてきたかを紹介しただけだったのですが、ここに皆さんの共感が集まるとは思ってもみませんでした。

みんな、それぞれ「今の自分が必要としているメッセージ」をしっかりキャッチしているんですね。

【講話で話さなかったこと：「本物を見る」ことへの力】

講話の中で取り上げられなかったことがあります。これは皆さんにも、そして保護者の方々にも知ってほしいことです。

それは、「思春期の人は、本物を見ると変化する場合がある」ということ。

私の長男が中学3年の夏休みに、突然こんなことを言い出しました。

「高校に進学したくない」

当時、成績もガタ落ちしていました。こんなことを聞いたら、大人は異口同音に「高校に行かないと将来困るよ」「就職できなくなるよ」とネガティブな説得をします。私も最初、それをやってしまいました。でも、彼には全く響きませんでした。

長男が高校に進学したくない理由は、こうでした。

「人とのぐちゃぐちゃした交わり、自分に入ってくる望まない干渉。学校にはそれがあるから嫌だ」

これ、思春期の皆さんなら共感できる部分、あるんじゃないでしょうか？

自律と自己の確立が進んでいく年齢だからこそその感覚。この状況で、大人が正論をいくら伝えても響かない。

どうしようか...

私はカウンセラーを訪れ、相談をしました。カウンセラーは私の話を聞くと、一言だけこう言ったのです。

「横田さん、思春期の子は本物を見ると変化する場合がありますよ。彼にとっての本物、って何でしょうね？」

「本物...って何だろう...」

そう考えていた時、夏休みの宿題で「高校の見学3校以上行くこと」があることが分かりました。

"これだ！"

長男は嫌々でも宿題はやる気質だったので、高校見学と一緒に行くことにしました。

私は一切、高校の評価を口に出さず(大人の正論を封印)、彼がどう感じたかだけを聞くことにしました。

・1校目: 県立高校

がやがやした雰囲気になじめず、30分もしないうちに「もう帰る」と言い出しました。

・2校目: 県立高校

とても自由な雰囲気で活気がある高校でしたが、ここも嫌だと言いました。「活気」が彼にとってのストレスでした。

・3校目: 私立高校

前の2校とは違い、生徒たちの雰囲気がかなり違いました。落ち着いた、大人のような様子。そして、3階建ての巨大な図書館。

これに彼は魅了されたようです。

彼は読書好きのインドア派。周りから意図しない干渉をされなさそうな雰囲気が、彼を覚醒させました。

「高校に進学したくない」から「あの高校に行きたい」に変わりました。

【他人に入れられたスイッチは直ぐ落ちるが、自分で入れたスイッチは落ちない】

それから彼は別人のように、勉強に力が入りました(塾には行っていません)。

平均点割れしていた数学で100点を取ってくるし、クラスで真ん中くらいだった成績が急激に上がり、わずか3ヶ月で学年3位になり、私立高校の特待生推薦をもぎ取ってきました。

自分でスイッチを入れた人は、本当に強い。

"本物に出会う"って、こういうことなんだなと実感しました。

どうしても嫌いなものを無理に挑戦してもうまくいく確率は低い。でも、"まあ、どうしても嫌ってことではないな"ということであれば、**"本物を見る"** ことで自分にスイッチが入るかもしれない。長男の例は、そんな事例の一つでした。

【大人になっても同じです】

実は、私も未だに「他人に入れられたスイッチ」は直ぐに落ちます。

仕事上、指示命令で無理やりスイッチを入れられそうになることがあります。でもこのとき、私はこう考えます。

「これ、どうやったら面白くなるかな？」

子供の時の創意工夫の癖が出てくるんです。
そうすると、指示命令とは関係なしにスイッチが入ります。自分の好きなテリトリーにする。つまり、領域展開です。

これが「軸」のパワーなんだと思います。

【最後に、皆さんへ】

今回の職業講話を通じて、皆さんが「自分なりのキーワード」を見つけてくれたこと、本当に嬉しく思います。
これから先、迷ったとき、悩んだとき、今日のワークシートや感想文を見返してみてください。

「あのとき、自分はこう思っていたんだな」

それが、未来の自分を支える軸になるかもしれません。

そして、もし「本物」に出会える機会があったら、ぜひ飛び込んでみてください。
それは、美術館かもしれない。コンサートかもしれない。職場体験かもしれない。誰かとの出会いかもしれない。

本物があなたのスイッチを入れるかもしれません。

皆さんの未来が、好奇心と軸に導かれた、素晴らしいものになることを願っています。

またいつか、どこかでお会いしましょう。

2026年2月7日
横田理彦（都立大泉高校 37期卒業生 / 1985年卒）